

(様式1)

平成28年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	校訓である「自主協同・自律責任・質実剛健・言行一致」のもと、生き生きとした校風の伸長を図り、知・徳・体の調和のとれた個性あふれる有為な社会人の育成に努める。
(2) 現状と課題	本校では農業教育や寮教育を背景に、資格取得、農業クラブ活動、生徒会活動や部活動等に積極的に取り組むなど、伸びやかな教育環境の中で、チャレンジ精神旺盛なたくましい生徒が活動している。一方で、将来への不安からくる自信喪失や、自己の進路に対する意識がやや希薄であったり、学習習慣や基本的な生活習慣が確立されていない生徒もいる。
(3) 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を充実させ、基礎・基本の定着と学力の向上を図る。 2. 規律ある基本的な生活習慣を確立する。 3. 農業生産活動をととして、将来のスペシャリストの育成をめざす。 4. 個に応じた進路指導の充実に努める。
(4) 結果の公表	本校ホームページに掲載し、保護者や学校関係者に公表するとともに広く一般にも公表する。

学校番号	50
学校名	青森県立三本木農業高等学校
全日 制課程	本校・校舎・分校
自己評価実施日	平成29年 1月11日(水)
学校関係者評価実施日	平成29年 2月13日(月)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員会の場で評価していただいている。 学校評議員の構成：保護者代表1名、学識経験者（農業機関・高校教育）各1名、地域農業経営者1名、同窓会代表1名の計5名。

番号	(5) 評価項目	自 己 評 価			学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
		(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	授業の充実と基礎学力の向上	<ol style="list-style-type: none"> (1) 校内外の研修に積極的に参加することで教員の指導力の向上を図る。 (2) 授業アンケートを実施し、課題を発見し授業改善を図る。 (3) 朝読書の時間を活用して、基礎学力の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 校外の研修については、図書研修部が研修案内を行い参加を促した。また、県外の研修等に関しては管理職からも参加を呼び掛けた。 (2) 年に2回授業アンケートを実施した。概ね3.7～3.8という好結果だったが、これからも常に授業改善が必要である。 (3) 朝読書の時間を取ることで、落ち着いた雰囲気での授業を開始することができる。また、国語科が中心となって、全校生徒対象の国語基礎力テスト(年間8回)を実施したり、学年独自の進路対策の時間として活用したり、一人ひとりの学力向上に効果を上げている。 	B	<p>学校評議員による学校評価では、「生徒一人ひとりの能力・適性を生かす、きめ細かい指導がなされているか」という項目で、学校評議員全員から「4：よくあてはまる」という評価を得ている。</p>	<p>校内外の研修については、今年度に引き続き教員の積極的な参加を後押ししていきたい。</p> <p>朝読書の時間は、来年度からドリル等を活用し、学年ごとに基礎力向上や進路目標の達成に向けた取り組みを実施する予定である。</p>	
2	基本的な生活習慣の確立と生徒理解の充実	<ol style="list-style-type: none"> (1) 年間を通して容儀服装指導を実施し、規律ある生活習慣を育成する。 (2) 登校指導や個人面談を実施し、生徒の生活状況を把握する。 (3) スクールカウンセラーと連携し、生徒の教育相談の充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 毎月1回容儀服装指導を実施した結果、目立って服装が乱れている生徒は見られなくなった。 (2) 毎朝生徒指導部を中心に、多くの先生が登校指導に加わり、生徒への声掛けを行った。生徒の変化を見逃さずこまめに声がけしていることが、非行件数の減少に繋がったものと考えられる。 (3) スクールカウンセラーに毎月1回来校していただき、悩みを抱えた生徒やホームルーム担任、保護者などとカウンセリングを実施した。スクールカウンセラーの的確なアドバイスにより、生徒のみならず、ホームルーム担任や保護者も精神的なサポートを受けている。 	A	<p>服装容儀については、以前の三農のイメージとは違い、よくなっているという意見をいただいた。</p> <p>また、いじめにより自殺する生徒が出ないよう、より一層教育相談の充実を図ってほしいという要望が出された。</p>	<p>教職員の生徒に対するきめ細かい指導によって、服装や挨拶など規律ある生活習慣が確立されてきている。生徒の非行件数も昨年度に比べ大幅に減少し、生徒が落ち着いて教育活動に取り組んでいることが伺える。次年度も生徒指導に関する取り組みを継続し、より一層の改善を図っていききたい。</p>	

3	開かれた農場運営とプロジェクト学習の充実	<p>(1)見学や農場体験学習を積極的に受け入れ、地域に貢献する。</p> <p>(2)教職員が新技術に対応した研鑽を心がけ、プロジェクト学習の充実を図る。</p>	<p>(1)学校行事や春苗の販売、サンファームの営業、農場見学、農場体験など、多くの方々に来校していただいている。地域の方々とのかわることにより、生徒たちの社会性やコミュニケーション能力が高まっている。</p> <p>(2)県内外の学校訪問・施設見学をはじめ、各種研修会に農業の教職員が積極的に参加し、研鑽を積んでいる。今年度、農業クラブの県大会の競技部門では好成績を収めたが、プロジェクト発表の部では最優秀賞を受賞することができなかった。</p>	A	<p>農業クラブの県大会に参加した学校評議員から、高校生が人前で堂々と話していて素晴らしい。話す技術や姿勢を身に付けさせることが大切だという意見をいただいた。</p> <p>また、校内プロジェクト発表会（12月実施）について大変良い内容だが、一般の方の参観が少なく残念だという意見をいただいた。</p>	<p>校内プロジェクト発表会については、保護者へ案内を出して参加を呼びかけている。また、市の広報に掲載してお知らせしているが、参加者が少ない状況である。生徒の学習活動を知っていただくいい機会なので、多くの方に参加していただけるような手立てが必要である。</p>
4	キャリア教育の推進	<p>(1)「三農羅針盤～キャリア教育活動指針～」による、三農オリジナルのキャリア教育を展開する。</p> <p>(2)進路だよりを作成し、生徒や保護者に進路情報を提供する。</p>	<p>(1)学校全体や各学科独自の取り組みを集約し方向性を示した「三農羅針盤～キャリア教育活動指針～」をもとに、それぞれの取り組みの意義や関連性を意識した教育活動を実践することができた。</p> <p>(2)進路だよりは昨年度からの試みであるが、年間4回発行し、進路に関する情報の提供と意識の喚起をすることができた。またホームページにもアップし情報の共有化を図っている。</p>	B	<p>学校評議員による学校評価では、「生徒の進路選択・決定にあたり、生徒の適正に見合った適切な指導がなされているか」という項目で、学校評議員全員から「4：よくあてはまる」という評価を得ている。しかし、保護者アンケートでは「生徒の進路選択・決定にあたり、保護者と連携した適切な指導がされているか」という項目のポイントがあまり高くない。</p>	<p>農業高校としての特性を生かし、地域の方々や企業・大学・専門学校等と連携し、生徒の社会的・職業的自立に向けた普通高校にはない独自の教育活動を実践しているが、これまで以上に他機関との連携を強化し、また、保護者との連携を密にしながら、より充実した教育活動を行っていきたい。</p>
(11) 総括		<p>教職員自己評価(1月実施)、保護者による学校評価(12月実施)、生徒の授業評価(12月実施)、分掌ごとの自己評価(1月実施)を参考資料とした。評価に関する職員会議(2月実施)を開催し、全教職員で振り返りの機会を持ち、次年度の目標作成に繋げた。学校評議員会(2月実施)で頂戴した学校評価についての意見・提言をもとに、次年度更なる改善と教育活動の充実に努めたい。</p>				